



感性を育んだ観劇会

昨日23日(木)は、3・4時間目が下学年、5・6時間目が上学年の観劇会が行われました。これは、「アーティストスポット熊本」の一環として行われました。この事業は、熊本市内で活動されている「アーティスト」と熊本市内にある発表の場「スポット」をつなぎ 熊本市民に文化芸術に触れる機会をつくるというものです。帯西もこの事業に応募し、今回「劇団不思議少年」をお招きし、演劇の世界にどっぷりと浸かることができました。この劇団不思議少年は、2009年に結成し、熊本を拠点に活動中です。全国短編演劇コンクール「劇王天下統一大会 2015」で優勝され、「日本演出者協会若手演出家コンクール 2014」で優秀賞と観客賞を受賞されたそうです。



演目「よだかの星」より

「観劇」と聞くと体育館に舞台や照明を設置し、幕が開いて、「さあ始まり!」というイメージがありましたが、この劇団不思議少年さんは、3人で話術と演技だけの表現で、まさに体一つで、分かり易く演劇の楽しさを存分に表現してくれました。しかも子供たちも参加型の演目もあり、全員がノリノリでいつの間にか時間が経つのを忘れて、演劇の世界に魅了されていました。

ところで海外では、演劇は海外では「生きる練習」と言われ、学校の授業でも実践されており、子供の成長過程において必須とされています。それは、創造性や協調性など、これからの時代に必要とされる「非認知能力」を育むことができるとも言われているからです。この「非認知能力」ですが、帯西で「自己有用感」を筆頭に、「目標を達成する力(忍耐力・意欲など)」「他者と協働する力(協調性・思いやりなど)」「情動を制御する力(自信・自尊心など)」など、知能検査や学力検査では測定できない能力や、目に見えにくい人の心や社会性に関係する力を伸ばそうと、日々道徳教育に取り組んでいます。

今回、劇団の代表の大迫旭洋さんは、「子供たちの素直に自分たちの意見を言ってくれる姿や、自分を表現しようとしている姿に驚きました。最後の感想交流も感動しました。」と子供たちの姿に感心されていました。(枠囲みは子供たちのお礼の言葉 ※一部抜粋) 帯西の教育は、演劇で目指すところと似ていることを実感し、道徳教育の取組が子供たちの成長の糧になっていることを実感できた一日となりました。

3年清原詩織さん：今日は私たちのために劇を見せてくださってありがとうございました。私は劇を見ることができてとても嬉しかったです。私は新曲を歌ったりラジオ体操を作られたりしたところに驚きました。私はこの劇を見て、みんなのために言葉を大きくはっきり言うことを学んだので、これからは、はっきり大きくダンスや発表などを頑張りたいと思いました。



6年廣田果歩さん：劇の中で、セリフを言うときに一言一言に言葉の重みがあり、ときには言い方をきえて楽しませてくださりありがとうございました。私は今日、帯西ブルーの「かけがえのない生命」というピースが伸びました。その訳は「素晴らしい世界」という作品で、生きていることが当たり前ではなくて、繋がっていることが大事なことだとわかったからです。



※劇中にBGMで流れたルイ・アームストロングの「この素晴らしい世界」は、心に沁みました。